

二〇一七年 七月

## 「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

### 今月の言葉

ひとつの言葉でけんかして ひとつの言葉で仲なおり  
ひとつの言葉はそれぞれに ひとつの「ころ」をもっている

吉野弘

言葉は、人を助けることや励ます一方で人を傷つけ、悲しませることもあります。普段の学校生活では、クラスやクラブ活動などで多くの言葉が交わされ、そこで嬉しい気持ちになったり、不愉快な気持ちになったり、様々な事を感じながら過していると思います。

時には友達との間でけんかをする時もあると思います。けんかをしているときは相手に腹を立て、絶対に許したくない気持ちになります。が、「ごめん」の一言で分かり合えることはあります。この詩で述べられているように、言葉には「ころ」があると思います。だからこそ言葉を通して伝わるものがあるのです。逆に上辺だけ飾ったような言葉では相手にはきつと届かないと思います。

言葉はもちろん大切ですが、その言葉を発している自分自身の「ころ」もしっかりと見つめていくことを教えられますね。

### 今月の聖語

他人に教えるとおりに、自分でも行なえ。

自分をよくととのえた人こそ、他人をととのえるであろう。

『ダンマパダ』

みなさんの日常生活の中で、人に対して「こうした方がよい」、「これはやめたほうがよい」等、ついつい口を出してしまうことがあるのではないのでしょうか。人のことは非常によく見えますが、肝心の自分のことと言えば・・・意外と気づかないことが多いのではないのでしょうか。つい口が先行してしましますが、まずは自分自身がしっかり実行できているか考えなくてはいいけません。当然のことながら、自分が出来ていないのに言葉にすると、その言葉に全く説得力がありませんね。

日常の様々な場面で「自分を」とのえる「という」ことは、簡単なようで難しいことかも知れませんが、人のことを言う前に自分自身がどのように過しているかを問い直してみましよう。そして、言葉に出すからには、それを自分自身がしっかりと行動で示しましょう。普段の生活のなかで教訓になる教えたと思います。